

『神が望まれるリーダー』

'21/06/13

聖書箇所:マルコの福音書 10章 32-45節(新約 p.87-)

皆さんは、「理想の上司」と聞いて、どんな方をイメージされます？…実は、「理想の上司」という言葉をネットで検索してみると、こんな風なアンケート結果が見つかりました。…それによりますと、理想の上司の第1位は、2018年から3年連続で、タレントの明石家さんまさんだったそうで、その理由は、「包容力と決断力がある…、その人の良さを引き出ししてくれる…」といったような意見だったそうです。

2位は2人居て、司会業でお馴染み、タレントの内村光良(てるよし)さんと女優の天海祐希(あまみゆうき)さんだったそうです。…男女別で見ると、男性の選んだ1位はさんまさんで、2位は野球選手のイチローさん。女性の1位が水ト(みうら)アナウンサー、2位が先程の天海祐希(あまみゆうき)さんや内村さんだったそうです…。

命題: 神が望んでおられる、「聖書的リーダーシップ」について考えましょう！

ま、この世の中の基準は、人それぞれでしょうけれども、天の神様は、そういったリーダーシップについて、どのように教えてくれているのでしょうか？実は、今日のみことばは、天の神様が望んでおられるような、「聖書的リーダーシップ」、あるいは、私たちクリスチャンが目標とすべきような「リーダーの資質」について教えてくれています。

願わくは、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、神様の喜ばれるリーダーシップというものを知ってくださって…、皆さんの教会が正しいリーダーシップのもと、ますます、神様のみこころに沿って歩んでいけますことと…、そうして、何より、私たちが、ますます、神様の喜ばれるよう成長していけますことを願います。

I・神がお立てになった、救いの「計画」！(32-34節)

どうぞ、まずは、今日のみことばの内、32-34節に注目していきましょう。このみことばは、神が救い主であられるイエス様を通してお立てになった、救いの「計画」について記されています。32-34節には、このように記されています。

32 さて、一行は、エルサレムに上る途中にあった。イエスは先頭に立って歩いて行かれた。弟子たちは驚き、また、あとについて行く者たちは恐れを覚えた。すると、イエスは再び十二弟子をそばに呼んで、ご自分に起ころうとしていることを、話し始められた。

33 「さあ、これから、わたしたちはエルサレムに向かって行きます。人の子は、祭司長、律法学者たちに引き渡されるのです。彼らは、人の子を死刑に定め、そして、異邦人に引き渡します。

34 すると彼らはあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺します。しかし、人の子は三日の後に、よみがえります。」

●イエス様の 受難 ！

今読んだみことばが教えてくれていますように、この時、イエス様の一行は、いよいよ、あのエルサレムへと向かっておりました。…この少し前、イエス様の一行は、ヨルダン川の東側、つまり、この地図だと紫色のエリアに居たのに(≒西へ移動したのに)、ここ 32節のみことばが、『エルサレムに“上る”…』という表現を使っているのは、エルサレムという町が、この周辺の町々からすると、少し高台にあったのと、エルサレムという町が、ずっと、イスラエルの歴史の中心に有ったと言い得るからだだと思います…。

さあ、それではまず、ここでイエス様が話して下さった、イエス様が受けるべき“受難”について、今から見ていきましょう。どうぞ、今読んだ33-34節に注目してみてください。そこでは、①エルサレムで…、②人の子、つまり、イエス様が…、③祭司長と律法学者たちに引き渡されて…、④イエス様が死刑に定められて、⑤異邦人、つまり、ユダヤ人以外の民族に引き渡される。そうして、その異邦人たちは、⑥イエス様のことをあざけて、⑦つばきをかけ、⑧むちで打って、⑨ついに、殺してしまう…。しかし、そのイエス様が、⑩3日経った後に、よみがえられる！ということが語られてあります。

一般的に…、これは、イエス様がお自分の受けられる受難に関して、前もって告知された、3度目のものであると言われています。たった今、簡単に説明させてもらったように、1度目や2度目に比べると、まあまあ詳しくなっております。…正直、ここ33-34節の内容を説明するだけでも、メッセージ1回分は簡単に話しかけるのですが、それについては、多分、今年の秋以降に、マルコ伝 14-15章のみことばを学んでいく時に、詳しく学んでいきたいと思います。

当然のことですが、今、説明をしました、「引き渡される」とか、「死刑に定められる」といったような動詞の時制はすべて、「未来形」で表現されています。…つまり、これらのことを皆、イエス様はご存知であったのです！…すべてをご存知の上で、何と、イエス様は、この時、弟子たちと一緒に、エルサレムへと向かっていって下さっていたのです！

でも、一体、どうしてでしょう？⇒それは、イエス様が、私たちのために、救いの道を備えてくださらないと、私や皆さんが救われる道が無かったからです！実に、そのために…、私と皆さんの救いのために、罪が全く無いイエス様の流される血やいのちが必要であったのです！…先週や先々週、私たちは、如何に、私たちの行ないでもって救われることが難しいかを学んだはずですが。そうでしょ！…いえ、難しいと言うか、行ないによっては、誰一人、救われることがない！というのが、聖書の教えだったはずですが。…だから、イエス様は、この地上に来て、私や皆さんの身代わりとして、十字架にかかる必要があったのです。

●イエス様の 従順 ！

では…、どうぞ、今度は、順番が少し逆になりますが、今日のみことばの32節に注目してみてください。…そこで、イエス様は、どこを歩いておられたと、みことばは教えていますか？⇒何と、イエス様は、一行の“先頭”を歩いておられたのです！…そうでしょ！

ところで、皆さんは、何かよほどイヤなこと…、あるいは、無茶苦茶気が進まないようなことをしなければならぬ時、それを、真っ先に…、1番にされますか？それとも、どっかちかと言うと、最後の方にされますか？…恐らく、私を含めて、ほとんどの人たちは、何かよほどイヤなことなどは、最後の方にされるのではないかな、と思います。…増して、この時、イエス様は、ご自分が死刑にされるための隊列を歩いておられたわけですが。…そうでしょ？…皆さんは、自分が死刑にされるために、どこかに向かう…。そのような時に、その先頭を歩いていけますでしょうか？しかも、自分が犯してもいない罪のために…。

でも、この時のイエス様は、大勢居たであろうメンバーの中で、先頭を歩いて…、恐らくは、鬼気迫るような雰囲気(かもし)出して、歩いておられたのです！…だから、ここ 32節のみことばが教えるように、そのイエス様の後をついて来ていた者たちは、『恐れを覚えた』のです！…そうじゃありません？

ここ 32節のみことばの後半を見ますと、『イエスは再び十二弟子をそばに呼んで…』と書かれてあることから、この時、イエス様と一緒に居て、エルサレム方向に向かって歩いてきたのは、12弟子たちだけではなくて…、もっと多くの人たちが居たことは間違いありません。

正直言って、この時の弟子たちが、イエス様が受けられる受難…、つまり、イエス様が捕らえられ、十字架に磔にされ、殺されてしまう！ということ、どの程度、具体的に、理解できていたのか分かりません。

しかし、ここ 32 節の時点で、彼ら12弟子たちは、イエス様から、少なくとも2回以上、エルサレムに行ってしまうと、そこで、イエス様が捕らえられて、殺されてしまう！ということ、明確に聞いておりました。…だから、この時、12弟子たちは皆、イエス様が、大勢の集まりの中で、その先頭をスタスタと歩いていかれる様(さま)を見て…、32 節に「驚いた…」と書かれてあるのです。

今日、このみことばから、皆さんに分かっていただきたいことは、この時のイエス様が持っておられた“従順さ”であります。…と言いますのも、この時のイエス様は、もちろん、ご自分がエルサレムに着いて、わずか、1週間ほどで、十字架に磔にされることをご存知でありました。…でも、皆さんもご存知のように、そういったことは、どちらかと言うと、イエス様の願いと言うよりも、父なる神様のみことばでありました。…そうでしょ？…正直、こんな言い方は、あまり良くないとは思いますが、イエス様個人は、どちらかと言うと、十字架にはかかりたくなかったのです…。

だから、イエス様は、最後、あの十字架に磔にされる前夜、ゲツセマネの園で、こう祈られたのです…。マルコ 14:36、『アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみことばのままを、なさってください。』って…。このように、イエス様個人としては、本当なら、十字架にかかりたくはありませんでした。…それはそうです！一体、誰が好き好んで、あんな恐ろしい十字架刑にかかりたい！なんて思うでしょうか！…でも、イエス様は、そういったことを、すべてご存知で、あの十字架へ…、あるいは、エルサレムへと向かっていってくださったのです！…何度も言いますように、それが、私やあなたにとって必要であったからです…。

Ⅱ・弟子たちの「願い」と「関心」！(35-41 節)

では、今度は、どうぞ…、今日のみことばの内、35-41 節にご注目ください。そこをご覧くださいますと、この時の12弟子たちの持っていた、「願い」や「関心」について記されています。マルコ 10:35-41 には、このように記されています。

35 さて、ゼベダイのふたりの子、ヤコブとヨハネが、イエスのところに来て言った。「先生。私たちの頼み事をかなえていただきたいと思ひます。」

36 イエスは彼らに言われた。「何をしてほしいのですか。」

37 彼らは言った。「あなたの栄光の座で、ひとり先生に、ひとりを左にすわらせてください。」

38 しかし、イエスは彼らに言われた。「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていないのです。あなたがたは、わたしの飲もうとする杯を飲み、わたしの受けようとするバプテスマを受けることができますか。」

39 彼らは「できます」と言った。イエスは言われた。「なるほどあなたがたは、わたしの飲む杯を飲み、わたしの受けるべきバプテスマを受けはします。」

40 しかし、わたしの右と左にすわることは、わたしが許すことではありません。それに備えられた人々があるのです。」

41 十人の者がこのことを聞くと、ヤコブとヨハネのことで腹を立てた。

●ヤコブとヨハネの「注文」！

ここには、イエス様から、十字架や復活に関する預言を聞いた後の、12弟子たちの行動について記されています…。まずは、その12弟子たちの内の、ヤコブとヨハネが取った行動です。ここマルコ伝には、彼らの名前を挙げるに当たって、『ゼベダイのふたりの子…』なんていう風に記されています。…と言いますのは、彼らは実際の「血を分けた兄弟」で、そのことを強調したかったからだと思います。

実は、彼らヤコブとヨハネの取った行動が、並行個所であるマタイ 20 章には、もう少し詳しく記されていますので、ここで、そこを紹介させていただきます。マタイ 20 章には、このように記されています、『20 そのとき、ゼベダイの子たちの母が、子どもたちといっしょにイエスのもとに来て、ひれ伏して、お願いがありますと言った。21 イエスが彼女に、「どんな願いですか」と言われると、彼女は言った。「私のこのふたりの息子が、あなたの御国で、ひとりあなたの右に、ひとりは左にすわられるようにおことばを下さい。」(マタイ 20:20-21) っって…。

⇒いかがです？分かってくださいました？…実は、この時、ヤコブとヨハネだけじゃなく、そこには、彼らの母親が居て…、ヤコブとヨハネと、彼らのお母さんの3人で、イエス様に“注文”をしたのです。…さて、その注文の内容は、こういったものでした…。今日のみことばの 37 節、『…あなたの栄光の座で、ひとりを先生の右に、ひとりを左にすわらせてください。』っって…。

皆さんは、この言葉が、具体的に、どういったことを指しているか、分かっていただけます？⇒簡単に言いますと、彼らは、イエス様に次ぐ、2番目と3番目の地位をイエス様にお願ひしたのです、しかも、他の10人の弟子たちには分からないよう、こっそりと…。

皆さん、信じられます？…何と、彼らヤコブとヨハネたちは、イエス様が、もう間もなく、エルサレムに着いたら、そこで、私は異邦人の手に引き渡されて、殺されなければならない！という話をされたのに…、そのすぐ後で、彼らが願ったのは、自分たちの地位だったと言うのです！（あきれませんか？）

しかし、まだ、この時点でも、彼ら弟子たちは、イエス様が死刑に定められて、殺される！ということが、明確には、イメージできていなかったように思われます。…だから、イエス様は、38 節で、こうおっしゃられたのです、『あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていないのです。あなたがたは、わたしの飲もうとする杯を飲み、わたしの受けようとするバプテスマを受けることができますか？』っって…。

ここで、イエス様がおっしゃられた、『わたしの飲もうとする杯、わたしの受けようとするバプテスマ』とは、一体何でしょう？⇒…そう！それは、イエス様が受けられた、あの苦しみや十字架のことを指します。…しかし、悲しいことに、彼らには、そのことを重大さや、その時のイエス様のお気持ちを、おもんばかることができませんでした…。この時のイエス様は、どんな気持ちでいらしたでしょう？(悲)

どうぞ、今度は、少し飛ばして…、41 節をご覧ください。…この時、ヤコブとヨハネがした「ぬげがけ」を聞いた、他の10人たちは、彼らのことで、『腹を立てた…』と、このみことばは教えます。実は、この言葉は、「(普通の)腹を立てる」というよりも、もっと激しい怒りを表わす言葉が使われてあります。多分、皆さんは覚えてくださっていると思います。少し前、私たちは、マルコ 10:14 で、イエス様が「憤られた」ということを学びましたでしょ？

実は、今日のみことばの 41 節で、10人の弟子たちが『腹を立てた…』と訳されている、この言葉が、それと同じ言葉(ἀγανακτῶ)が使われているのです。…つまり、この時、ヤコブとヨハネ以外の10人の弟子たちは、あの時のイエス様と同じように…、憤慨した！激しく憤った！ということ、今日のみことばは教えてくれているのです。…しかし、どうぞ、皆さん、このことは知っておいてください。あの時、イエス様が激しく怒られたのは、その時の弟子たちの取った行動が…、小さな子どもたちを連れて来た、その親たちのことを追い払おうとしたと言うか…、それが、人々の躓きとなるような行ないであったからでした。…そうでしたでしょ？

しかし…、それと比べて、この時に10人の弟子たちが激しく憤った理由は、何だったでしょう？…それは、彼ら他の10人の弟子たちが出し抜かれたからです！違います？…例えば、つい最近、マルコ 9:34 でも学んだように、彼らは、道を歩きながら、「自分たちの中で、誰が1番偉いか？」なんていうことを論じ合っていたような者たちでしょ？…また、つい先週の礼拝でも引用したみことばで…、弟子のペテロ

は、イエス様に何と言いました？ マタイ 19:27、『…ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。私たちは何がいただけるでしょうか。』…このように、彼らイエス様の弟子たちは、確かに、一時は、イエス様についていくために、ほとんどすべての物を捨てて、イエス様に従っていきました。…しかし、恐らく、この時の弟子たちは、その見返りと言っては何ですが、何か、大きな褒美を期待していたのではないのでしょうか(救い以外に)？つまり、彼ら12人の弟子たちは皆、同じような欲を…、同じような考えを持っていたと思われまふ。…そういったような、弟子たちの心の奥底までも、ご存知であったイエス様のお気持ちは、どういったものだったでしょう？(悲)

● 私たちに対する、神の みこころ ！

どうぞ、今度は、先程飛ばした部分を見ていきましょう。少し前の 38 節から、こう書かれています。『38 しかし、イエスは彼らに言われた。「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていないのです。あなたがたは、わたしの飲もうとする杯を飲み、わたしの受けようとするバプテスマを受けることができますか。」 39 彼らは「できます」と言った。イエスは言われた。「なるほどあなたがたは、わたしの飲む杯を飲み、わたしの受けるべきバプテスマを受けはします。 40 しかし、わたしの右と左にすわることは、わたしが許すことではありません。それに備えられた人々があるのです。』」って…。

→ここで、イエス様は、「まだ、この時点では、弟子たちが、本当に、自分たちが何を求めているのか、よく分かっていないのだ…」という趣旨の話をされます。…確かに、彼らは、自分たちの願っていることや、また、自分たちが経験するであろう、詳しい内容を、この時点ではよく分かっておりませんでした。しかし、彼らが分かっているように分かっているかろうと、結局は、最善なる神様のみこころだけが成るのです…。

実際、この後、ヤコブは、12弟子たちの中では1番早く、殉教することになります(使徒 12:2)。一方のヨハネの方も、殉教こそ、しませんでした。彼も、また、最後は「(パトモスの)島流し」にあっただけということが、黙示録(1:9)を見れば分かります。…つまりね、皆さん。彼らが何を願おうと、あるいは、何を願っていないかろうか、結局は、最善なる神様のみこころだけが成ることなのですよ。…そうじゃないでしょうか？

良いですか、皆さん？…前回の礼拝でも学んだように、イエス様は、「自分を捨て、自分の十字架を負って、その上で、わたしについて来なさい！」というような招きをなされました…。こんな話をいたしますと、ある方たちは、「私は、神様に従っていきたくない！私の人生は私のものだ！私は、自分の好きなように生きていきます！」みたいなことをおっしゃる方がおられるのですが、…でも、いくら、私たちが抗(あらが)おうが、すべてを御支配されておられる神様には逆らえないのではないのでしょうか？

だって、いくら、私たちが「健康でいたい！」と願っていても、私たちが病気になることが神様のみこころだったら、どうなります？…病気になるまいで済みます？済まないでしょ！…と同様に、私たちがいくら、「これをして！あれはしたくない！」と言い張っていても、神様のみこころには逆らえないのです。…それでしょ？…だったら、私たち…、神様に逆らい続けるのではなく、神様という存在を認めて、その神様を信じ、従っていくべきことを受け入れても良いのではないのでしょうか？…実は、すべてを造り、すべてを御支配なさっておられる真の神様を信じ受け入れた者たちが、クリスチャンなのではないのでしょうか？

実は、ルカ 9:23 で、イエス様は、こう教えてくださっています、『だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。』って…。皆さん、分かってくださいます？…確かに、私たちが救われるのは、一生の内、たった1度…、その救いを失うことはありません。しかし、私たちが、自分を捨てて、神様の前に従っていくという決心は、たった1度きりではなくて、私たちが日々、その思いを新たにしていくなのです。…そういったことが、救われたクリスチャンたちにも必要なのです…。

Ⅲ・イエス様からの アドバイス ！(42-45 節)

では、最後に、今日のみことばの 42-45 節で、イエス様が教えてくださった、“アドバイス”について見ていきましょう。ここで、イエス様は、私たちが目標とすべきリーダーシップについて教えてくださっています。42-45 節には、こうあります。

42 そこで、イエスは彼らと呼ばれて、言われた。「あなたがたも知っているとおり、異邦人の支配者と認められた者たちは彼らを支配し、また、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。

43 しかし、あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。

44 あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、みなの上になりなさい。

45 人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」

● 世間一般の リーダー と、イエス様が教えてくださった 霊的 なリーダー

今読んだ 42 節をご覧くださいと、ここで、イエス様が、12弟子たち全員を呼び寄せられたことが分かります。…それは、彼らに、大切なことを伝えたかったからに違いありません。…まず、ここ 42 節で、イエス様は、世間一般での“リーダー”について教えてくださっています。イエス様がおっしゃるのは、『あなたがたも知っているとおり、異邦人の支配者と認められた者たちは彼らを支配し、また、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。』ということでした。確かに、歴史上、支配者と呼ばれてきた者たちは皆、相手に何らかの戦いを挑んで、それに勝利した者たちが、自分以外の者たちのことを支配して、権力を振るってききました。…それが、この世の常でありました。

さて、そういったことを、イエス様の弟子たちも願っておりました。…彼ら弟子たちの関心は、如何に、他人が自分に仕えてくれるか？この中で、誰が一番偉いか？何人の部下がいるか？というようなことでありました。…しかし、そういったことは、私たち人間は評価してくれたいとしても、天の神様が評価してくださるようなことではありません…。

天の神様が評価してくださるのは、何人の部下がいるか？というようなことではなくて、「あなたは、何人の人に仕えたか？何人の人たちの必要に応じてきましたか？」ということです。だから、イエス様は、弟子たちに対して、あなたたちは、『みなに仕える者…、みなの上になりなさい！』と教えてくださったのです！…これこそが、イエス様が、私や皆さんに対して願っておられる“みこころ”なのです。

● イエス・キリストの 模範 ！

どうぞ、今日のみことばの最後、45 節をご覧ください。もちろん、ここ 45 節の教えと、その前の 44 節のお言葉とは無関係ではありません。…そうでしょ！イエス様は、ここで、「みなに仕える…、みなの上になる…」ということの、イエス様ご自身が実践してくださった、最高の模範について教えてくださっています。そこには、こうあります、『人の子(つまり、イエス・キリスト)が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。』って…。

良いですか、皆さん？この聖書のみことばが教えてくれているのは、イエス様こそは真の神であられます。その神が、この地上に来てくださった1番の目的は、人々にあがめられるためでした？…いいえ、イエス様が、この地上に来てくださった1番の目的は、このみことばが教えてくれているように、ご自分のいのちを犠牲にするためでありました。

じゃあ、一体どうして、イエス様のいのちが必要であったのでしょうか？…それもまた、このみことばは教えてくれています。それは、①多くの人のために…、②贖いの代価が必要であったからです！…『贖いの代価』と言いますのは、「奴隷であった者を解放するために支払う身代金のこと」を言います。イエス様は、罪の奴隷であった私たちのことを唯一解放できるお方なのです。

実に、そのために、イエス様は、あの十字架上で、ご自分のいのちを犠牲にしてくださいました。…イエス様がおっしゃるのは、私や皆さんにも、わたしと同じようにしていきなさい！ということです。そうでしょ！…実は、今日のみことばの 44 節のところ、『みなものしもべになりなさい…』という表現には、「奴隷」とも訳せる言葉(δοῦλος)が使われています。

例えば、皆さんも、よくご存知だと思います。最後の晩餐の時、イエス様は、弟子たちの足を洗ってくださいました。「他人の足を洗う」という行為は、本来、召使いや奴隷たちの役目でした。だから、弟子たちは、お互いの足を洗いたくなかったのです。…なのに、その時、弟子たちに足を洗ってもらえる立場であるはずの、イエス様が弟子たちの足を洗ってくださったのです！…そうでしょ！

その時のことを、ヨハネ伝のみことばは、このように記してくれています。ヨハネ 13:13-17、『13 あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいますが、あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。15 わたしがあなたがたにたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。16 まことに、まことに、あなたがたに告げます。しもべはその主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさるものではありません。17 あなたがたがこれらのことを知っているのなら、それを行うときに、あなたがたは祝福されるのです。』

⇒良いですか、皆さん。このみことばもまた、今日のみことばの最後と同じことを教えてくれています。しかし、特に、皆さんに注目していただきたい部分は、最後の 17 節です。…そこには、私たちが、イエス様のなしてくださった、偉大な御業やみことばを知っているだけで祝福されると教えてくれています？それとも、その学んだことを、私たちが行なう時に、私たちが祝福されるということを教えてくれています？どちらでしょう？…もちろん、“それを行なう時”ですよ！…つまり、知っているだけでは、ほとんど意味が無いのです。

<励ましの言葉>

時々、説明させてもらっていますように、私たちの教会では、多くの教会がしているような「祝福」という、礼拝の最後などに、牧師が手を挙げて(ジェスチャー)、会衆のための祝福を願うような祈り？行為？をいたしません。正直、私も祝福そのものを否定するつもりは無いのですが…、でも、皆さんが祝福されるか否かは、牧師である私が祝福を捧げるかどうかよりも、皆さんが、毎週毎週学んだみことばを実践するかどうかにかかっているのではありません？

今日、皆さんは、イエス様が、あの十字架を前にしても、大胆に、その道に従っていかれたという模範を学んでくださいました。一体どうして、イエス様が、そのような厳しい道に進んでいかれたのか？…それは、それこそが、「神様の喜んでくださる…、神のみこころであったから」です！…そうでしょ！

もしも、皆さんが、この神様からの祝福を得たいと思われるのなら、皆さんに必要なのは、牧師の捧げる祝福以上に…、皆さんが聞いたみことばを行なうこと…、みことばを実践していただくことです！…どうか、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、この世的なリーダーになることを願うのではなく、神様が喜んでくださるような…「聖書的なリーダー」、イエス様のような…「真のリーダー」になっていただくことです。

これは、一部のクリスチャン…、つまり、牧師や教師へのみことばではなく、すべてのクリスチャンたちに対する、イエス様からのチャレンジであり、勧めです。…だって、救われた私たちは皆、常に、霊的に成長していくことを願い…、「もっと、キリストに似た者へと変えられたい！さらに、清く変えられていきたい！」ということをお願いしているはずでしょ！

そうして、まだ、イエス様のことを信じておられない皆さん…。私たちの、この世の中は、様々な競争が当たり前の社会です。如何にして、他人よりも優位に立つか？どうしたら、あの人に勝てるか？…そんな社会じゃありません？…でも、イエス様が与えてくださる、新しい価値観は、他人との比較ではありません。神様が、私たちをどう評価してくださるか？私たちが、どの程度、神の御性質に似た者へと変えられていくか？です。…どうか、1日も早く、私たちの犯した罪の清算をなしてくださった、イエス・キリストを真唯一の神、あなたの救い主として、信じ受け入れていただくことをお勧めします。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。